

3年連続有機汚濁環境基準達成 17年一級河川水質調査



国土交通省は全国一級河川 109 系や湖沼、計 1,106 地点で行った平成 17 年 1 年間の水質調査結果をとりまとめ、18 年 9 月 22 日に発表しました。

このうち有機汚濁調査については、有機汚濁の代表的な水質指標である BOD や COD の環境基準値を満たしている地点の割合が、3 年連続過去最高の 88% を維持したことが明らかにされました。

BOD 平均値が最も良好だったのは、北海道の尻別川、後志利別川、鶴川、沙流川、札内川、北陸の荒川の 6 河川で BOD の平均値はいずれも 1 リットル当たり 0.5mg でした。

一方、BOD 平均値のワースト 3 となったのは、近畿の大和川 (BOD 平均値 6.4mg/L)、関東の鶴見川 (同 4.7mg/L)、綾瀬川 (同 4.7mg/L) でしたが、BOD 値の 10 年間の改善幅でみると、1 リットルあたり 5.9mg 減の綾瀬川、5.5mg 減の大和川、2.3mg 減の鶴見川はいずれもベスト 3 でした。

なお、今回は新たな試みとして「人と河川の豊かなふれあい」、「豊かな生態系」などの新指標に基づき、住民との協働による水質調査を全国規模で初めて試行しました。その結果、「人と河川の豊かなふれあい」について最高の A ランクと評価された地点は約 15% (219 地点中 33 地点)、「豊かな生態系」で A ランクと評価された地点は約 52% (201 地点中 104 地点) となっていました。

当社では排水分析に長年の実績がございます。排水分析について、ぜひ一度ご相談下さい。

資料 2006 年 9 月 26 日付 EIC ネット

国土交通省ホームページ

水質分析箇所 江上泰邦